

■東京盃（JpnII）アラカルト（過去 58 回の分析）

- ※第 6 回（昭和 47 年）は「NET 盃」の名称で実施
- ※第 29 回（平成 7 年）からは指定交流競走として実施
- ※第 31 回（平成 9 年）からはダートグレード競走として実施
- ※第 20 回（昭和 61 年）は内回りコースで実施
- ※第 36 回（平成 14 年）から第 37 回（平成 15 年）までは 1,190m で実施
- ※第 16 回（昭和 57 年）は 2 頭が同票数で単勝 2 番人気だったため、単勝 2 番人気馬は 56 頭、単勝 3 番人気馬は 54 頭
- ※記録は令和 7 年 9 月 25 日時点

■1～3 番人気馬の 3 着内率がほぼ同じ

単勝 1 番人気馬は 19 勝、2 着 8 回、3 着 6 回で、3 着内率が 56.9%、単勝 2 番人気馬は 12 勝、2 着 10 回、3 着 10 回で、3 着内率が 55.2%、単勝 3 番人気馬は 12 勝、2 着 9 回、3 着 11 回で、3 着内率が 55.2%となっている。単勝 1～3 番人気馬の 3 着内率にほとんど差がないレースだ。

■上位人気馬が 1～3 着を占めた例は 12 回

過去 58 回のうち 43 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 19 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 12 回ある。

■複数回の優勝経験がある馬は 7 頭、“連覇”は 6 頭

東京盃において複数回の優勝経験があるのは、第 11 回（昭和 52 年）と第 12 回（昭和 53 年）を制したトドロキヒリュウ、第 17 回（昭和 58 年）と第 18 回（昭和 59 年）を制したスズユウ、第 21 回（昭和 62 年）と第 25 回（平成 3 年）を制したテツノヒリュウ、第 28 回（平成 6 年）と第 29 回（平成 7 年）を制したサクラハイスピード、第 31 回（平成 9 年）と第 32 回（平成 10 年）を制したカガヤキローマン、第 40 回（平成 18 年）と第 41 回（平成 19 年）を制したリミットレスビッド、第 51 回（平成 29 年）と第 52 回（平成 30 年）を制したキタサンミカヅキの 7 頭である。なお、このうちテツノヒリュウを除く 6 頭は 2 回連続の優勝だ。

■ 歴代優勝馬の約 7 割が 5 歳以下

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 11 勝、4 歳が 12 勝、5 歳が 16 勝、6 歳が 9 勝、7 歳が 6 勝、8 歳が 3 勝、9 歳が 1 勝となっている。幅広い世代から優勝馬が出ているものの、全体の 67.2%は 3～5 歳の比較的若い世代だ。

■ 牝馬は 10 勝、外国産馬は 5 勝

牝馬の優勝例は第 2 回（昭和 43 年）のオリコ、第 8 回（昭和 49 年）のイナリトウザイ、第 9 回（昭和 50 年）のオサイチテユダ、第 14 回（昭和 55 年）のカオルダケ、第 16 回（昭和 57 年）のレイクルイーズ、第 22 回（昭和 63 年）のイーグルシャトー、第 30 回（平成 8 年）のトキオクラフティー、第 34 回（平成 12 年）のベラミロード、第 36 回（平成 14 年）のインアイン、第 46 回（平成 24 年）のラブミーチャンと、計 10 回ある。また、外国産馬の優勝例は第 30 回（平成 8 年）のトキオクラフティー、第 35 回（平成 13 年）のノボジャック、第 45 回（平成 23 年）のスーニ、第 49 回（平成 27 年）のダノンレジェンド、第 53 回（令和元年）のコパノキッキングと、計 5 回ある。なお、優勝を果たした外国産馬 5 頭はいずれもアメリカで生産された馬だ。

■ 3 着内馬のおよそ 3 分の 2 は JRA 所属馬

指定交流競走となった第 29 回（平成 7 年）以降の計 30 回に限ると、地方所属馬は 11 勝、2 着 9 回、3 着 9 回、JRA 所属馬は 19 勝、2 着 21 回、3 着 21 回となっている。3 着以内馬延べ 90 頭のうち、32.2%が地方所属馬、67.8%が JRA 所属馬だ。なお、地方所属馬によるワンツーフィニッシュ決着は 3 回、JRA 所属馬によるワンツーフィニッシュ決着は 13 回ある。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「4」

騎手別の勝利数を見ると、佐々木竹見騎手、高橋三郎騎手が 4 勝でトップタイ。内田博幸騎手、佐藤隆騎手が 3 勝で 3 位タイとなっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録は「3」

調教師別の勝利数を見ると、3勝の加用正調教師が単独トップ。朝倉文四郎調教師、大沼五郎調教師、大山末治調教師、岡部猛調教師、川島正行調教師、佐藤賢二調教師、須田明雄調教師、高橋三郎調教師、高柳恒男調教師、武森辰己調教師、村山明調教師、森秀行調教師、矢作芳人調教師が2勝で2位タイとなっている。

■ 1番から16番まですべての馬番が優勝例あり

枠番別の勝利数を見ると、8枠（11勝）が単独トップ。2枠（9勝）が単独2位、3枠（8勝）が単独3位となっている。また、馬番別の勝利数を見ると、3番（9勝）が単独トップ。1番と6番（各7勝）が2位タイ、2番と11番（各5勝）が4位タイである。なお、未勝利の枠番ならびに馬番はない。

＜伊吹雅也＞